

# 真宗大分

## 頌春

大分教区教務所長 杉 本 正 信



慈光照護のもと、皆様方におかれましては、つつがなく新春をお迎えのこと慶賀に存じ上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、バブル崩壊による高齢者やいじめによる青少年の自死問題、また家庭における親子の不和の問題等「いのち」にかかわる様々な悲しい事件や犯罪が頻繁に起こっている現況を踏まえ、まさに現代は苦悩する社会ともいえるのではないのでしょうか。一昨年ご発布いただきました「親鸞聖人七百五十回大遠忌についての消息」で、ご門主

様は「人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支えあう組織を育て、み教えを伝えなければなりません」とお示しくださっており、誠にありがとうございます。私たち浄土真宗のみ教えをいただく者として、その使命の果たすべき責務の重さ、且つ大きさをあらためて痛感いたすと共に、御同朋の社会の実現をめざして、本年も一歩一歩着実に基幹運動の推進に取り組んで参りたく存じております。

さて、いよいよ宗門では「新たな始まり」をコンセプトに、親鸞聖人七百五十回大遠忌にむけて、六重点項目・二十七推進事項からなる長期計画の推進に取り組んでおります。御開山聖人のおこころを体し、御同朋の社会の実現をめざして、歩み続ける思い

第118号  
創刊 昭和41年8月  
発行所 大分教区基幹運動推進委員会  
〒874-0920  
別府市北浜3丁目6-36  
本願寺別府別院内  
TEL 0977-22-0146

をそれぞれ新たにすると共に、愈々お念仏の輪が広まりますよう、職員一同力を合わせ取り組んで参る所存でありますので、今後とも格別のご指導ご鞭撻ご協力を賜りますようお願い申し上げます。何卒よろしくお願い申し上げます。まして年頭の挨拶といたしまして、  
合 掌

### 新宗会議員紹介

高橋 篤法氏

速見組 西光寺住職



この度、速水宗議前宗会議員退任により、12月1日の選挙会にて宗会議員に当選されました。宗門発展のため活躍を期待いたします。

### 青年布教使 研修会開催

平成十八年十月三十日から三十一日にかけて、第5連区青年布教使研修会が大分教区の担当で開催された。会場の別府亀の井ホテルには九州各教区から四十五歳以下の青年布教使や布教団の役員など、八十名を超える参加者が集い、「浄土とわたし」をテーマに熱心に研修が行われた。



研修風景

開会式の後、布教専修課程講師の阿部信幾師(東京教区群馬組西福寺住職)より、仏教の特色である「縁起」「二諦論」についての講義をいただき、問題提起を受けた後、六班に分かれて「御文章をどう説くか」について、話し合



講師 阿部 信幾先生

翌日はお朝事に引き続き、佐賀・宮崎の代表者による布教実演・講評があり、伝え方の難しさをあらためて実感する時間となった。十時より、再び阿部師により、仏と私の関係や、前生・現生・後生の三世は相依相関の関係にあるので後生が助かることにより今が助かることなど、御法義の根幹に関わることについて御講義をいただいて閉会となった。参加者一同にとって、たいへん有意義な研修の場となったようである。

基幹運動のページ

仏の教え

ビーイング・ピース ほほえみが人を生かす  
〜ティック・ナット・ハンさんに導かれて〜

ベトナム戦争当時の一九六三年六月十一日。

サイゴンのカンボジア代表部のある交差点で車が止まり、七三歳のティック・クアン・ドック師が車から降り、交差点の真ん中に静かに座った。弟子らしい二人の僧侶がポリ容器に入った液体を師に浴びせ、師はゆつくりとマツチを擦った。一瞬にして炎がたち、師は燃え立つ炎のなかで約四分間座禅の姿勢を保ったまま絶命した。師が倒れると、僧侶たちは一斉に跪いて合掌した。あたりはガソリンと人間の焼ける臭気が満ちていた。焼身した老僧には遺書があった。

「私は発願しました。自分の幻身を焼いて仏様に捧げ、その功德によって仏教が永続し、ベトナム全国の平和と国民の安業が実現しますように。・南無阿弥陀仏」  
〔社会をつくる仏教〕阿満利磨著

◆ ◆ ◆

約束してください、今日、約束してください、太陽が中天にあるとき。たとえ彼らが山ほどの憎悪と暴力をもってあなたを打ち据えようと、覚えていてください、兄弟よ、人間が敵なのではないことを。

たとえあなたの憐れみ、あなたの憎しみが、無敵で、無限のものであっても、憎しみだけで、人間のなかの野獣に直面することは決してできない。そしてある日、この野獣に一人です。

直面するとき、あなたの勇氣は無傷であなたの目はやさしく、あなたの微笑から花が開き、あなたを愛する人たちがあなたを見る。

出生と死の一万回の繰り返しを越えて。

再び一人で頭を垂れて、私は行く。愛の不死と、私は行く。

長い、険しい道に

日と月がともに輝き

道を照らすことを知りながら。

「すすめ」

ティック・ナット・ハン作

◆ ◆ ◆ およそ仏教の真理を求めた人々は、決して自己ひとりの救済にとどまることはなかったし、ましてや私利や時流などは眼中にはなかった。

◆ ◆ ◆ 今となれば、こうした仏教の本流につながる道を見出すことはきわめて困難なのかもしれない。しかし、幸いにも阿弥陀仏の本願を「完全なる立脚地」として選ぶことができた私にとつては、この本流につながる道を見出し、それを実践することをほかに仏教に生きる道はない、と信じるようになった。こうした時期に、東南アジアやアメリカの「エンゲイジド・ブッディズム (Engaged Buddhism)」の潮流を知ったことは大いに勇氣づけられることになった。人間の煩悩を見据えることは

もちろん、社会苦とも正対することに仏教徒としての課題を見出すというその姿勢は、私の年来の問題意識と見事に符合したのである。

「エンゲイジド・ブッディズム」の紹介は、日本ではまだ十分とはいえない。その日本語訳も「社会参加する仏教」「行動する仏教」あるいは「闘う仏教」などさまざま、定訳はない。本書の「社会をつくる仏教」も試みの一つである。本来ならば、その実態と思想について、もつとつこんだ紹介をするべきなのであろうが、「エンゲイジド・ブッディズム」という言葉は新しくとも、その思想や実践は、つまるところ、仏教がそのはじめから目指してきた、「利他」という、わが身をあとにしても、同朋の救済を願う教えに端を発しているとも解釈できる。

◆ ◆ ◆ 〔社会をつくる仏教〕阿満利磨著

お詫び

◆ ◆ ◆ 今号において、次年度の大分教区の僧研をご報告する予定でしたが、まだ最終決定いたしてないため記事にすることができませんでした。

およろこび記事

【法 要】

豊後高田組 栄法寺  
○本堂改修、梵鐘鑄造落成  
慶讃法要

勤行「正信念仏偈」  
平成十八年十一月十八日

【住職就任】

白石 正信  
宇佐組 蓮光寺  
18・5・25就任

加藤 達昭  
東国東組 教順寺  
18・7・11就任

月溪 宗証  
院内組 西福寺  
18・8・22就任

中島 恭敬  
玖珠組 芳蓮寺  
18・8・31就任

長岡 義淳  
宇佐組 妙満寺  
18・11・27就任

巖 龍彰  
白佐組 西教寺  
18・12・6就任

# 響け

## 奥豊後の山に 念仏の声

各組めぐり  
⑦  
岡 組

### 岡組寺院の概況

大分教区岡組は大分県南西部をエリアとし、竹田市(旧直入郡久住町・直入町を含む)をはじめ豊後大野市の一部(朝地町・緒方町・清川町)と佐伯市の一部(宇目町)、さらには 由布市の一部(庄内町の一部)、大分市の一部(旧野津原町の一部)と、非常に広範囲に展開しています。組内の寺院数は二十四カ寺。現在の組長は竹田市直入町の志賀孝紀(常證寺)です。それぞれの寺院が各々個性をもち、念仏相続・布教伝道に励んでいます。

### 門信徒・僧侶・寺族の 全員開法へ

岡組の基推委主催による活動目標は、「全員が開法し伝道して、御同朋の社会の実現をめざす」であり、年間の数ある行事の中でも、仏教婦人

会活動(以下「仏婦」と書きます)及び寺族婦人会活動(以下「寺婦」と書きます)と連続研修(以下「連研」と書きます)は、門信徒への伝道といった観点からも一定の成果をあげています。

### 活発な仏婦・寺婦活動

仏婦(会長、佐藤美恵子)活動においては、毎年夏に「仏教婦人岡組開法の集い」を開催し、組内各寺より多数の門信徒が集まり、全員で開法と交流を深めています。第19回目となる本年度は七月四日に安楽寺本堂で開催され、講師に後藤宏彰師(今こそ大悲)藤並晃照師(生きるということとはうまれることだ)を招いて本堂一杯の仏教婦人の皆様と聴聞し、昼休みにはマジックや舞踊などのアトラクションで賑いました。

また仏婦では、この「開法の集い」だけではなく「仏婦ミニ研修」と称して、小規模

な研修活動も行なっています。本年度第八回ミニ研修は『聖人のおこころにふれて』正像未和讀に学ぶ」と題して、十一月四日に妙覚寺本堂で行なわれました。

さらに、門信徒対象の仏婦活動だけではなく、寺族婦人の開法・研修活動も余念がありません。年間五回の寺婦研修会を企画・実行しており、和やかな雰囲気の中、組内各寺院の坊守様方が互いに研鑽し、お念仏の声も高らかに交流を深めています。



仏婦開法の集い、講話、後藤宏彰師  
(2006年7月4日・安楽寺)

### 伝統ある連研

本年度で第十二期を迎えた岡組連研。今期の課程は十一月十八日、会所を西蓮寺本堂

において修了式を迎え、受講生・講師共々互いの労をねぎらいました。今期の連研は『連研ノートD』に沿った形で進められ、問題提起の後、班に分かれての話し合い法座という形をとりました。回を重ねるごとに研修生の皆さん方も打ち解けてきて、自分の思いを素直に話して忌憚のない意見交換ができ、さらに提起されたその問題がリアルなものとなつて研修生・講師の意欲を掻き立てるものとなり、実に有意義な話し合い法座となつていきました。「法を聞く」ということが、机上の空論的な話を聞くのではなく、そこには、「生きた教え」が存在しているように思えます。

### これからの岡組

来年度からは第十三期が始まります。また新しいメンバーを加えて、生きたおみのりが聞けることを楽しみにしていきます。

全員開法・全員伝道、御同朋の社会の実現をめざすには、現状に甘んじてはいけません。さらなる開法や研修、全ての教化団体の充実を図っていくことなどが組の重点目標として掲げられています。



れんけん修了式、話し合い全体会議  
(2006年11月18日・西蓮寺)

特に日校(少年)・仏青・仏婦・仏壮(昨年岡組仏壮連盟をたちあげた)の充実が課題であります。地方の過疎化や全国的な少子高齢化が問題となつていますが、そのような中で特に青少年の教化育成は多難ではありますが、これ以上手を拱いていても前進はありませんから、単独寺院での活動が困難であれば、組内複数の寺院によびかけての日校の共催などといったパターンも視野に入れ、教化活動に取り組んでまいります。

組内は典型的な過疎地域ばかりですが、去る十月一〜四日第37回本願寺念仏奉仕団に一行四十五名が参加、第十回表彰をうけたり、各寺院が協力し合つて「ともにいのちかがやく世界へ」目指してまいります。

(組内源勝寺記)

# アロハ!

九月一日より三日まで第十三回世界仏教婦人会大会が「願いに生きる」のテーマのもと、北米、カナダ、南米、ハワイ、日本より、約四千名の参加者のもと、ハワイ、コンベンションセンターを会場に開催されました。一日、私は日本代表として総裁さまを始め、総務さん、事務局、副会長と、四開教区との代表者会議に出席いたしました。前もって提出していた案件の審議、決議が行われましたが、英語の解らない私は、頭の上をABCが行ったり来たり、要点は総長さんが通訳して下さいました。

午後、ハワイ州知事さんを表敬訪問、ステキなキャリアウーマンでした。二日、メンバー手作りのハワイアンキルトの水引、打敷、色彩やかな南国の花でのお荘厳「南無阿弥陀仏」がライトアップ



第13回世界仏教婦人会大会 大分教区 2006年9月1日

プ。開会式で総裁さまは、阿弥陀如来様のみ光に照らされるなら、人種や民族、文化の違いを越えて、他人の痛みを自分の痛みとして受け止める

ました。かわいい子どもを交え男女によるハワイアンに目を奪われ、千人全員での昼食・夕食凄い事が出来るのだと驚きました。三日、いよいよ私の出番、淑やかな日本人女性のごとく和服を着て、「次回十四回大会を親鸞聖人七百五十回大遠忌法要の年に日本で開催いたします。世界各地より多くの方々に御参加下さい」と大会アピールをいたしました。今回総連盟会長として参加して今まで経験した事も無い大きなご縁をいただいた事に感謝しております。大分教区から七十名参加

感性を養い、互いに話し合い、敬い合い他人とともに生きる事が出来ます。これからも聞法につとめ、お念仏のみ教えを喜ぶ仏教婦人として活動を進めましょうと呼びかけられ

しました。皆元気に出発、元気に帰って参りました。参加者全員の協力のおかげだと思っております。ありがとうございました。

## おくやみ

次の方々のご逝去されましたので、生前のご苦勞を偲び謹んで敬弔の意を表します。

- 安藤 静子(平18・10・23) 大海組 佛言寺 前坊守
  - 巖 正道(平18・10・24) 臼佐組 西教寺 住職
  - 古莊 好子(平18・11・25) 豊後高田組 願正寺 前坊守
  - 浄念ツヤ子(平18・12・12) 深見組 浄念寺 前坊守
- 前宗会議員  
元総務  
○速水 宗讓(平18・11・21) 速見組 西法寺 住職

## 九州地区門信徒の集い 第17回仏教若婦人(女性)大会

期 日 2007年10月20日～21日  
参加資格 45才までの女性方、是非ご参加下さい  
会 場 杉乃井ホテル (予定)

## 編集後記

昨春秋、宇佐市にある大分県立歴史博物館の開館二十五周年特別展「み仏の美とかたち」―大分の仏教美術一四〇〇年の輝き―が開催されました。その中に奈良博物館所蔵親鸞聖人像(熊皮御影)が展示されていきました。本物に接する機会に恵まれ感動でした。さらに気を引いたのに「木造五劫思惟阿弥陀坐像」があります。両手を膝の上に重ねたお姿や合掌しているお姿に接することができました。

昨今は、いじめ、虐待、交通事故死、殺人、テロ等々の人命を損なう事態・事件が多発しています。大変悲しいこととで、改めて「生命を大切に」と声を大にしたい。  
日本漢字能力検定協会が昨年十二月十二日、二〇〇六年の世相を象徴する漢字に「命」を決定したそうです。これも同趣旨なのではないでしょうか。本年は「安穩」の毎日であってほしい。